

第五回東京岩中會に出席して

山 中 順 三

終戦後、東京岩中會が復活して、第一回の会合を三田商店楼上で開いたのは、二十六年秋だつたと思う。

当時未だ大学生だつた藤村義三、小山勝、有原隆司、佐藤正也の四君が、主になつて在京同窓生の名簿作製と云う面倒な仕事を完成し、松田現幹理事長の助言と同会々長である三田理事長の援助とによつて、復活第一回の会合を開いたものです。

以来事務所を三田商店東京支店(中央区日本橋小網町一ノ三)におき、会長、幹事長の指導の下に、佐々木久志、八重樫昌宏、佐々木敬一、山館義平、田村壽諸君と云うよい後継者が現われて、此の度第五回の總會を開いた訳です。その間いつも案内状を頂戴して頂いたのですが、色々な都合で出席出来ず残念に思つていました処が、今回幸にも出席する機会を得て、実に愉快な一夕を過ごすことが出来ました。

当日、案内状には「開会は五時であるが四時頃から来て會員同志の懇談を歓迎する。」とあつたので、正四時会場であるYMCAへ行つたところが、未だ誰も来ていない。「こりや、盛岡時間かな」と思つている矢先、田村壽君が現われて僕の心配を吹飛ばして呉れた。

懐しい顔が次々にやつて来る。大学生活七ヶ月のフレッシュユマンも結構立派な大学生振りだ——お互いに交わす話の内容も亦その用語も全く立派な大学生で——如何にも潑刺として楽しそうである。

やがて開会の辞に次ぎ、僕に「何か話しを」とのこと、こんなこともあるものと、色々準備して来たのだが、時間も気になるし、七面倒な話も如何かと思われて、お願いだけ二つ——図書の寄贈と、来春三月の受験生の世話と——して、相変らずの無作法な教師振りを發揮した次第です。次いで、その頃、出席された理事長より、英国のカレッジライフの「自由と規律」と云つたようなお話があつて、出席者一同得る処が多かつたと思います。

又当夜は、旧職員南部、梅原両先生が、岩中在職当時の懐古談を披露され——私は、私なりに愉快な懐しい思出に耽りました。続いて、同窓生が一人宛立つての自己紹介は実に痛快。控目なのがあれば、すぐ友人よりの賞讃的補足が続き、自己宣伝があれば、どつと野次が飛ぶと云う具合で、誠に和かな、且つは盛大なものでした。話はつきず、——わけでも両先生始め石沢、佐々木両君とは十数年振りの面談のこととて、お互に話したいこと、聞きたいことが山程あつたのだがその夜七時半の汽車で、東京をたつことにしたので、文字通り後髪を引かれる思いで——会半ばにして、失礼して来ました。

開けば、在京の同窓生は、社会人学生を合せて百二十三人あるとか、そして此の会も回を重ねる毎に、出席者が殖え、今回は遅参者を加へると六十名を超える盛況であつたとか、東京岩中會に限らず、岩泉、松尾始め各地に散在するどの岩中會に出席しても、同窓生諸君が、誠に豊かな気持で社会に奉仕している姿に接して、本校創立の趣旨が着々と実現して行くことは喜びに堪えません。

尙当日同窓生諸君より

① 伝統のラグビーはもつと活躍して欲しい。

② 東京の大学を受験する者は、どしどし自分達を利用して欲しい。出来る丈のことはするから。

と云う在校生への伝言がありました。

最後に、当日出席の方々の芳名を記して、東京岩中會の一層の發展を祈ります。

- 三田理事長、南部五郎、梅原儀太郎両先生、一回生 松田巖雄、石井律郎、八回生 石沢勉、佐々木徳一、十回生 島谷諒、十三回生 大西博、十六回生 牟岐鹿楼、十七回生 野島磯夫、吉田弘、新高一回生 小山勝、佐藤正也、二回生 小沢彪、佐々木睦芳、日野沢進、三回生 小田島昂、葛西直和、佐々木久志、藤沢和夫、村井弘郷、四回生 植本俊男、今野文雄、坂入希一、佐々木敬一、佐藤友亮、淵沢敬吉、八



- 重樫昌宏、山館義平、加藤茂夫、五回生 安西弘次、石川宗平、小笠原達夫、小田島康雄、工藤佐吉、昆晃、高橋哲夫、田村壽、橋本東洋、村田篤信、升田忠樹、村上昇、村井良和、吉田弘悦、吉田勉、新中三回生 荒谷榮恵、金野浩裕